【385】

氏　　名	中山清次（なかやませいじ）
学位の種類	農学博士
学位記番号	論農博第719号
学位授与の日付	昭和52年9月24日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文題目	**無角和種作出の経営経済的研究**
論文調査委員	（主査）教授 上村恵一　教授 三好正喜　教授 菊地泰次

論文内容の要旨

本論文は，山口県阿武郡および萩市という限られた地域において作出されたわが国和牛の一品種「無角和種」を研究対象として，その作出過程を耕種農業の発展と対応させて解明し，作出要因，立地的特性および流通過程を通じて品種固定の経過を発展史的に分析した。またこの品種と農家経済との関係を他品種である褐毛和種，黒毛和種，日本短角種および見島牛の飼育地帯の農家経済と比較研究し，その品種の経営的特性を明らかにしたものである。以下主なる点を述べると次の通りである。

第1に，和牛の一品種が作出され固定される要因は，その地域の耕種農業なかんづく水稲生産技術の発展と照応し，組織的，制度的な改良方式の推進，先駆的中核農家の行動およびその品種の価格有利性等にあることを実証的に示している。

第2に，水稲生産技術の発展とくに水稲品種の変遷，施肥方法の改善，耕地改良，水利改善および耕耘技術の発展にともなって和牛の飼養形態が変わり，繁殖経営が発展すると共に農業の商品生産化が進み，これらと関連して品種が固定されてゆく経過とその条件を解明している。

第3に，新品種作出の展開過程と農業経営の特異性を明らかにして，その立地的特性と取引慣行から，新品種の飼養が一地域に限定され，他地域に拡大普及しなかった点を指摘している。

第4に，作出された新品種が他の和牛品種に比して，子牛生産形態，育成形態，肥育形態のそれぞれについて経営的にも技術的にもその作出地域の農業経営に密着した諸特性を有することを明らかにして今後の生産方向を示唆している。

論文審査の結果の要旨

家畜の品種作出に関する生産技術的な研究は多いが，その品種の作出過程を歴史的にその地域の農業経営との関連において体系的に研究したものは稀である。本論文は山口県阿武郡および萩市において作出された和牛の一品種「無角和種」を対象とし，藩制末期の見島牛を出発点として，在来種和牛の改良

発達過程を，地域農業および農業技術発達と照応させて体系的に解明したものである。その評価すべき主な点は次の通りである。

第1に，農業経営がその地域の立地特性に基づいて変革するに伴い，和牛品種が作出され固定される過程を明らかにしている。とくに水稲耕作技術が発展し，品種が晩生穂数型多収穫品種へと移り，施肥技術が発達し，乾田化および深耕が進み，二毛作が展開して，麦類，稲藁を中心とする飼料が豊富になると共に，和牛飼養形態が変わり，和牛の品種改良も農業経営の中で進んでゆく。これに呼応して組織的な技術指導体制がその改良を一層促進し，生産組合のたゆまざる努力と指導的役割を果たす中核的農家の存在がその促進要因となっていることを指摘している。また商業的農業の展開が子牛生産販売の意欲を刺激し，新品種の価格有利性が一層新品種の作出を促進した点を解明して，新品種作出の要因と展開条件を明らかにしている。

第2に，農業経営条件ならびに飼育立地条件から新品種の他地域への拡大普及を困難ならしめた実態を明らかにして，慣行的取引機構の閉鎖性を指摘している。

第3に，和牛の他品種の飼養地帯の実態調査を通じて，新品種の農業経営における優位性を比較検討し，新品種の経営経済的特性を明らかにして，今後の農業経営改善の方向に対する新品種の役割について貴重な示唆を与えている。

以上のように本論文は，和牛の新品種が作出される過程を農業経営の発展過程との密接な関連のもとに解明したもので，農業経済学の研究のみならず，農家畜産の実際にも貢献するところが大きい。

よって，本論文は農学博士の学位論文として価値あるものと認める。